

活 用 技 術

平成 24 年度

ジフェノコナゾール剤によるカキ円星落葉病の殺菌剤散布回数削減技術

[要約] カキ円星落葉病に対して、孢子飛散盛期～同 10 日後（6 月中旬～6 月下旬）にジフェノコナゾール剤を散布することにより、7 月上旬の殺菌剤散布を 1 回削減できる。

農業総合研究所園芸研究センター 環境・施設科

連絡先

TEL 0254-27-5555

FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

カキ円星落葉病に対しては、子のう胞子の飛散盛期が薬剤の散布適期である（平成 2 年度参考に供する技術）。本病に対して高い防除効果と優れた残効性があるとされるジフェノコナゾール剤を孢子飛散盛期に散布することによって殺菌剤散布の総回数を削減する。

[成果の内容・特徴]

- 1 カキ円星落葉病菌の子のう胞子飛散盛期～同 10 日後（6 月中旬～6 月下旬）のジフェノコナゾール剤の 1 回散布は、カキ円星落葉病に対して高い防除効果がある（図 1、図 2）。
- 2 子のう胞子飛散盛期 12 日後（6 月下旬）にジフェノコナゾール剤 1 回散布（減農薬）は、6 月下旬にチウラム剤および 7 月上旬に脂肪酸グリセリド・有機銅水和剤の 2 回散布を行った慣行と同等の防除効果がある(図 3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成果は、カキの無ボルドー防除体系の防除地域に適応する。
- 2 子のう胞子の飛散盛期は、カキ円星落葉病防除適期の予測法（平成 2 年度参考に供する技術）を用いて推定する。
- 3 ジフェノコナゾール剤は薬剤耐性菌の発生リスクが高い農薬であるので、使用は年 1 回に限定する。
- 4 前年多発生園では防除効果が不安定になる可能性があるため、落葉を園外に持ち出し、あらかじめ越冬菌密度を低下させておく。

[具体的データ]

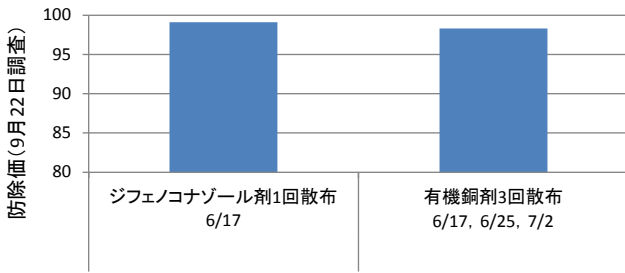


図1ジフェノコナゾール剤および有機銅剤のカキ円星落葉病に対する防除効果(平成22年度)
 聖籠町園研セ、品種:平核無、無処理区:発病率86.8%、発病度63.3、胞子飛散盛期推定日:6月18日

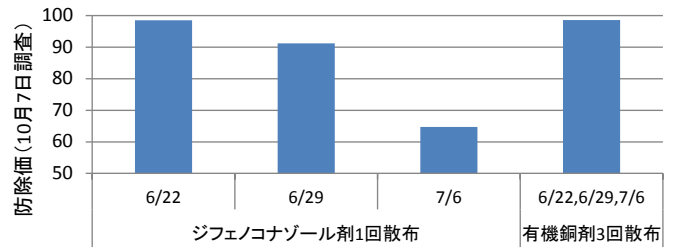


図2 ジフェノコナゾール剤および有機銅剤のカキ円星落葉病に対する防除効果(平成23年度)
 聖籠町園研セ、品種:平核無、無処理の発病率:97.9%、発病度90.9、胞子飛散盛期推定日:6月18日

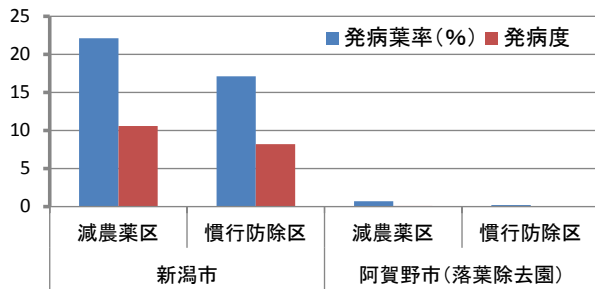


図3 減農薬区と慣行防除区におけるカキ円星落葉病の発生程度(平成23年度)
 品種:平核無、胞子飛散盛期推定日:6月18日

現地カキ園場における殺菌剤の防除実績(平成23年度)

時期散布	生育ステージ	散布薬剤	
		慣行区	減農薬区
5月19日	展葉20日後	チウラム水和剤	
6月4日	開花初期	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤
		フルオルイミド水和剤	フルオルイミド水和剤
6月10日	満開7日後	チウラム水和剤	ジフェノコナゾール水和剤
6月30日	満開20日後	脂肪酸グリセリド・有機銅水和剤	
7月9日		チオファネートメチル水和剤	キャプタン水和剤
7月23日		フルオルイミド水和剤	フルオルイミド水和剤
8月6日			イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤
8月20日		チオファネートメチル水和剤	

実証園地 新潟市秋葉区七日町, 阿賀野市千唐仁

[その他]

研究課題名: 果樹こそ IPM-環境にやさしい病害虫密度制御技術の確立
 予算区分: 県単特別
 研究期間: 平成21~23年度
 発表論文等: なし